

南雲 龍 セラミック 石野泰之 絵画

高橋房雄 版画

武藤裕道 彫刻

金井訓志 絵画

持木芳明 彫刻

丸橋有象 絵画

石坂孝雄 彫刻

山田一英 彫刻

板倉潤一 絵画

萩原清作 彫刻

土屋賢次 彫刻

高橋芳文 絵画

藤重朋紀 写真

「あいつも渋高だつて」

三浦浩蔵 絵画

山本善一郎 版画

加藤啓治 絵画

豊嶋康男 工芸

一倉 宏 コーラボレイティング

原澤和彦 絵画

今井充俊 絵画

小淵俊夫 彫刻

松村 功 絵画

多胡 宏 版画

萩原敏孝 絵画

渡 和由 環境デザイン

儘田博雄 絵画

安達元一 放送作家

石関和夫 絵画

小林 修 写真

丸橋 桂 アートディレクション

関口雄希 工芸

水野 脛 絵画

福井諭史 絵画

山田守破離 絵画

賛助出品 井田秋雄 絵画

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館開館20周年記念

群馬県立渋川高等学校・創立100周年記念

渋川高校出身作家展

榛嶺の学舎に育った作家たち

2020

10/10(土) ▶ 11/22(日)

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館

〒377-0008 群馬県渋川市渋川(新町) 901-24 Tel.0279-25-3215

飯塚 健 映画監督

賛助出品 下田紀史 絵画

榛嶺の学舎に育まれた才
 関東平野の最北端、群馬県を囲うように北から西にかけて三つの山、赤城山、榛名山、妙義山があります。これらの山は地元では、“上毛三山”と親しまれ、その中の榛名山麓の東側に位置するのが群馬県立渋川高等学校です。渋川高校の校歌は「自由の子 民主の民ぞ〜」で始まりますが、その印象深い歌詞は、学生らの雰囲気や校風を語っているかのように思えます。さらに2番の冒頭では「学舎は 榛名のふもと〜」と歌われており、榛名山を背にして建つ校舎は「榛嶺(しんれい)」という言葉が似合います。文化祭や文集などにも「榛嶺」という言葉が使われ、渋高生には馴染みのある言葉です。

人は、どこかの土地で生まれ、学び、育み、それぞれの道を歩みます。特に地方の場合、その地で育まれたものの別の場所へ行ってその才を発揮する者が多くいます。その一方で、県外で学び、また地元へ戻って町の一端を担う者もいます。今回、創立100周年記念を発端に動き出した本展は、文化・芸術に携わり各界で活躍する人々へと話が伝わり、同窓生の繋がりによって、多岐にわたるクリエイティブな仕事をご覧頂けることとなりました。是非、上毛三山の紅葉とともに、“榛嶺の学舎で育った作家たち”の作品をお楽しみください。

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館開館20周年記念
 群馬県立渋川高等学校・創立100周年記念
 渋川高校出身作家展

榛嶺の学舎に育った作家たち

会期 / 2020年10月10日(土)〜11月22日(日)
 10:00-18:00 (入場は17:30まで)
 休館日 / 火曜日(11月3日閉館、11月4日休館)

会場 / 渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館
 〒377-0008 群馬県渋川市渋川(新町)1901-24
 Tel.0279-25-3215 Fax.0279-23-1907

観覧料 / 300円 (中学生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料)

主催 / 渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館
 共催 / 渋川高校出身作家展実行委員会
 後援 / 上毛新聞社、朝日新聞社前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群馬、渋川市文化協会、群馬県立渋川高等学校、群馬県立渋川高等学校同窓会

※展覧会の変更等の情報は、渋川市のホームページでご確認ください。



丸橋 桂 / 貸生堂カルチャー誌「花椿」



飯塚 健 / 映画「ヒノマルソウル〜舞台裏の英雄たち〜」のポスター



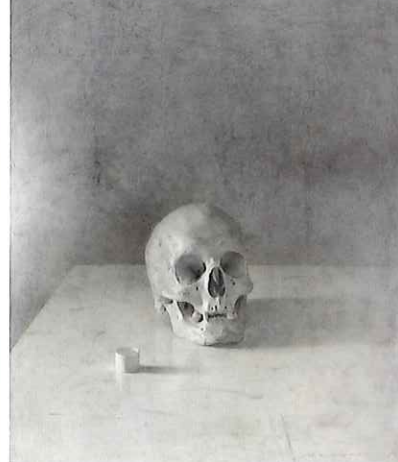
今井充俊 / 《去来の華》 H180×W120cm



再興 駿 / 《物質文明の終焉》 H61×W54×D38cm



小林 修 / 《上空1万3700mから見た東京》可動遊太郎の音楽3「原石の四角」より



水野 暁 / 《Untitled》 H55.3×W46.1cm



渡 和由 / 《ため池を借りる「街の緑町パレット」



石坂孝雄 / 《夏の終わりに》 H400×W400×D1200cm



関口雄希 / 《ep objpy》 H745×W40×D30cm

あなたと、コンビに、
FamilyMart

行くぜ、東北。
 まだ、ここにはない、出会い。

一倉 宏 / コピーライティング

- 出品作家 卒業年
- 南雲 龍 1948
- 石野泰之 1954
- 高橋房雄 1957
- 武藤裕道 1957
- 丸橋有象 1961
- 石坂孝雄 1965
- 板倉潤一 1968
- 萩原清作 1968
- 高橋芳文 1969
- 浦野礼三 1970
- 金井訓志 1970
- 持木芳明 1970
- 山田一英 1970
- 土屋賢次 1971
- 藤重朋紀 1971
- 三浦浩哉 1971
- 山本善一郎 1971
- 加藤啓治 1972
- 豊嶋康男 1972
- 一倉 宏 1973
- 今井充俊 1976
- 小淵俊夫 1976
- 多胡 宏 1976
- 萩原敏孝 1976
- 渡 和由 1976
- 原澤和彦 1977
- 松村 功 1979
- 儘田博雄 1979
- 安達元一 1984
- 石関和夫 1985
- 小林 修 1985
- 丸橋 桂 1991
- 関口雄希 1993
- 水野 暁 1993
- 福井諭史 1995
- 山田守破離 1995
- 飯塚 健 1997
- 賛助出品
- 井田秋雄
- 下田紀史

「榛嶺の学舎に育った作家たち」記念シンポジウム

も① ー 渋高を感 じま せんか？

2020年11月8日(日) 13:40 開場 14:00 開始 渋川市民会館 小ホール

入場無料 主催／渋川高校出身作家展実行委員会 ※ マスクの準備と着用をお願いします。

第一部 14:00～ 《クラリネットコンサート》

演奏プログラム／演奏 高橋貞春 (Clarinet)、糸賀のぶ子 (Piano)

1. 夏の名残りのバラ アイルランド民謡
2. アヴェ・マリア C.グノー・J.S.バッハ 作曲
3. ハンガリー舞曲第5番 J.ブラームス 作曲
4. 渋川高等学校校歌 佐藤春夫 作詞、信時 潔 作曲



高橋貞春

渋川高等学校、国立音楽大学器楽科卒業。爛恋西中学校、渋川高校の教師として奉職後、渡欧しウィーン音楽院卒業。ウィーン市室内管弦楽団や室内楽奏者として活躍。帰国後は、月刊誌「音楽現代」の演奏批評や、ソロ・リサイタル、吹奏楽コンクール、日本クラシックコンクール等の審査員。日本クラリネット協会理事。

糸賀のぶ子

女子聖学院短期大学卒業。(株)カワイ楽器の専任講師として数多くの生徒を選入、入賞に導いている。また、高橋貞春氏の伴奏者として各種演奏会を行い、幼児教育におけるリトミックにも力を注いでいる。なお、江戸の儒学者、大山融齋(1852年地球儀を制作)の子孫であり、研究者でもある。



第二部 14:30～16:00 《シンポジウム》

テーマ／「榛嶺の学舎に育った作家たち」が集う美術展をほりさげる・・・

シンポジスト：染谷 滋 茂木一司 角田正衛 須田真理 司会：山田一装

元群馬県立群芳美術館館長 群馬大学教授 渋川高校東京同窓会副会長 渋川市美術館学芸員 実行委員会副委員長

渋川高校出身作家展のテーマに掲げられた『榛嶺の学舎』である群馬県立渋川高校の創立100年を機に、渋高で『育った作家たち』が、開館20周年を迎えた地元の渋川市美術館にそれぞれの今を展示・発表することで新たな視点・企画の美術展が開催されます。

出身地や卒業年代が異なる作家たちに共通点があるのか、また、群馬県内外の美術作家たちと異なる特徴があるのか、美術の枠を拡大した視覚を通しての表現活動、さらに、聴覚・言語等を通しての表現活動において「渋高」が見つけれられるのか、ほりさげようと思います。また、参加された皆さんの質問からも、その糸口が見いだせるかもしれません。

今回の美術展を通して、新たな形の美術展を渋川市美術館から発信、渋川高校の後輩たちへの応援・激励と渋高のさらなる隆盛、渋川市の活性化、につなげたいと思います。

もつボジウムは、まぐ前に作品に触れ、まいてもう一度見るまよし。

渋川高校出身作家展

榛嶺の学舎に育った作家たち

会期／2020年10月10日(土)～11月22日(日)

会場／渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館

渋川高等学校創立100周年記念
「榛嶺の学舎に育った作家たち」記念シンポジウム

日時／2020年11月8日(日) 14:00-16:00 入場無料

会場／渋川市民会館 小ホール

〒377-0008 群馬県渋川市渋川 2795 番地 TEL.0279-24-2261

※このシンポジウムは、渋川市民会館の感染症拡大予防ガイドラインに従います。シンポジウムの変更情報は市民会館のホームページでご確認ください。

【渋川市民会館】<http://shibukawa-civihall.com>

